

会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会

2 開催日時

令和 8 年 2 月 24 日（火） 午後 2 時 00 分から午後 2 時 50 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 203 会議室

4 出席した者の氏名

（1）委員

羽賀祥二、岡本耕平、赤塚次郎、渡邊智治、岡田雅隆、高橋秀治、中村真咲

（2）執行機関

滝教育長、中村教育部長、（歴史まちづくり課）加藤課長、小川課長補佐、市野統括主査、
鈴井主査補、河寄主査補、河合

5 報告

（1）令和 7 年度の活動について

6 議題

（1）通史編の内容について

7 傍聴人の数

0 人

8 内容

1. 開会

2. 報告

・事務局より資料 1 に基づき説明。

3. 議題

（1）通史編の内容について

事務局：2 月 4 日時点で全 12 章 45 節 149 項のうち約 96%の原稿提出があった。第 5 章の福祉・

子育ての項目に未提出がある。ページ数は本文が 741/680 ページ、前付・後付を含む全体が 835/774 ページで 10%ほど超過していた。特に超過が多かった第 2 章の執筆者に削減を依頼し、合計 89 ページ減ったため現状は本文 652/680 ページ、全体 746/774 ページとなっている。割り当てページ数に収まったが、未配置の図版を入れるとまたページ数が増えそうだ。

内容としては前回の委員会です承を得たものから大きく変わっていないが、タイトルや項目の入れ替え等があった。執筆要領で「平易で簡潔な文章で記述するとともに、写真や図版等を活用するなど、理解しやすく親しみやすいものとする。(一般市民対象)」と定めたが、20 人ほどの執筆者がいて文体も異なる。読みやすさ、わかりやすさ、正確さの観点からチェックリストを作って専門部会で共有した。このリストに従って原稿チェックを進めている。

事務局で気になった点や不明点は「確認事項」の一覧表にしている。前回の専門部会では、主に重複の解消や内容の再構成、小見出しの付け方について確認した。また、存命の当事者や関係者が多いため、人物の発言の取り扱いについても検討した。その後の部会長・事務局による読み合わせ、事務局による確認では、話の流れや表現がわかりやすいか、自治体史として適当な内容かという点も含めて通読し、「確認事項」を更新した。

【文章の表現】

- ▶言い換えや繰り返しの表現が続くと冗長な印象を与えるため、簡潔に表現した方がよい。
- ▶年代や項目を細かく分けることで似た内容が繰り返し出てきたり、文章量が増えたりしている場合がある。(第 1・5・6 章の民俗、第 3 章第 2 節のごみ処理施設、第 4 章第 1～5 節の環境、第 7 章第 1 節の観光など) 節・項の再構成や小見出しの整理でわかりやすくする。
- ▶端的すぎて伝わりにくい言い回しもある。(専門用語、熟語の多用、「～的」「～化」等の抽象的表現) 難しく硬い印象を与えるため易しくしたり、説明を加えたりした方がよい

【人物の表記】

- ▶資料編と同様、様々な分野で活躍された人物が登場する。氏名+肩書を基本とし、肩書がない場合は「～氏」と表記する。歴史上の人物には敬称を付けないが、今回の記載対象(近現代の人物)は存命か故人かも踏まえて個別に判断する。

【コメントの引用】

- ▶新聞記事、市広報、議会会議録を資料として使用し、記載コメントを直接引用した原稿もある。平成期に話題になったこと、議論が巻き起こったことは事実として公表されているが、コメントの直接引用によって特定の人物に焦点が当たりすぎたり、センセーショナルになったりする懸念がある。読み手の受け取り方は様々である。“文章は執筆者自身の言葉で書く”という大方針があるので、表現のしかたや内容の取り扱いを相談しながら調整していく。

委員長：上限 800 ページに収められそうな状況になったが、「見開きに一点程度」の図版が提示されていない原稿もある。執筆者の癖があり、専門領域も違うので書きぶりが異なる。色々なタイプの文章が出てきて読み合わせに苦労している。統一はできなくても、できるだけ読みやすく修正してもらうことを今後 3 か月かけてやっていく。現代史、同時代史に誤りがあるてはならないし、ほとんどの方が生存されているので配慮が必要になる。慎重に原

稿のチェック、検討に取り組んでいく。編さん委員の方々に原稿案を渡し、目を通してもらえるのはいつ頃になるか。来年度の連休明けぐらいか。

事務局：入稿前には目を通していただき、欠けている視点がないかご意見をいただきたい。

委員長：各団体の代表をされている方々なので、各分野を中心に読んでいただき、誤りや追加のご意見をいただきたい。できるだけ早く機会を作る。また、市庁内の各部課にも目を通してもらい、関係者、当事者の意見を踏まえて誤りのない原稿にしていく。多くの関係項目があり、事実関係のチェックだけでも相当な時間がかかる。

委員：意見ではなく単なるコメントだが、第10章第1節第3項「大学誘致をめぐる動き」が気になった。“新聞コメントの直接引用によって大学と不和があった印象が強い”とのことだが、実際原稿を読んでも表現がなかなか厳しい。事実としてあったのだと思うが、ここに書くことによって関係者からクレームが来たらまずいのではないか。表現をまろくして「行き違いがあった」「議論が分かれた」位にする方が無難だと思う。

委員長：ありがたい指摘だ。事務局もそうした視点でチェックしている。新聞はどうしてもセンセーショナルに書くものだが当事者が存在する。別の資料で補うなどしてバランスを取っていく。市内のいろいろな面で対立関係がある。その辺りを客観的かつ適切に表現する工夫が必要になる。

委員：資料編で新聞記事の使用が有料とのことだったが、その問題はクリアできたのか。

事務局：資料編は新聞記事を多く使用したので新聞社へすべて申請し、編さん支援業者を通じて使用料を払った。1件平均で5,000円程度だった。

委員長：今は新聞社も使用料を取るのが普通になっている。資料編は多くの新聞記事を掲載したので使用料が大きかった。通史編はそういうことはなさそうだ。

事務局：引用の範疇であれば問題ないが、新聞記事をそのまま画像として載せるとなると使用料がかかる。その場合は資料編と同様、新聞社に許諾申請して使用料を支払う。

明日(2月25日)専門部会を開催し、委員会の報告や内容調整を行う予定である。①内容の調整(重複の確認、配置換え)、②項目・小見出しの検討、③文章の点検(文体、用語、言い回しなど)、④図版の確認、差し替えを行なった後、事務局・部会長の確認結果を執筆者へ連絡し、調整や修正を依頼する。また現在、編さん支援業者にも原稿確認を依頼している。プロの目で用語、表現、事実関係をチェックしてもらい、3月の戻り原稿を見て表記等の修正を図る。3月末に専門部会を開催し、修正事項を確認する。

令和8年度は年度初めに印刷製本・配送業者と契約のうえ、入稿～校正～印刷製本～配送の作業を行っていく。5月連休明けに専門部会を開催し、原稿案を最終確認する。その後、部会長と事務局で点検して入稿準備を進め、6月頃からの入稿を目指す。3回の校正を経て年内に校了とし、年明け以降は印刷製本・配送作業、3月末までの刊行を目指す。印刷部数は資料編と同じ1,000部、販売価格は印刷製本の契約額にもよるが4,000円程度になるか。

委員長：資料編は5,000円で売れ行きがよくない。通史編は3,000円にならないかと事務局にお願いしている。多くの方に読んでほしいので、なるべく価格を抑えてほしい。

事務局：資料編の販売部数は令和7年12月時点で42冊である。1,000部のうち半分以上が協力者や各施設への頒布で、販売部数は300部である。

4. その他

- ・次回の委員会は令和8年6月3日（水）午後3時00分～の予定。詳細は改めて連絡する。